

## 令和 7 年 10 月～12 月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和 7 年 10 月～12 月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800 社（回答企業 427 社 回答率 53.4%）

2 調査期間 令和 7 年 12 月 8 日（月）～12 月 19 日（金）

### 3 結果概要

今期（10 月～12 月期）の前年同期比を見ると、雇用人員 DI<sup>\*</sup>が改善、売上高 DI、採算 DI がやや改善、資金繰り DI が 2 期連続で横ばい、業況判断 DI が横ばいとなっている。

来期（1 月～3 月期）の予測は、業況判断 DI、雇用人員 DI がやや改善、採算 DI、資金繰り DI がやや悪化、売上高 DI が悪化となっている。

今期は改善傾向の指標が多いものの、業種別では建設業において悪化傾向が多く見られる等、業種間で差異が生じている。加えて来期予測では悪化傾向が多く見られることから、引き続き市内企業の動向を注視する必要がある。

※「ディフュージョン・インデックス」の略称で、経済活動の状況を把握するために複数の指標をまとめて分析し、景気の方角性を示す統計指標のこと。

○業況判断	前年同期比の指標は横ばい（ $\Delta 13.3 \Rightarrow \Delta 12.9$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 12.9 \Rightarrow \Delta 11.9$ ）
○売上高	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 4.6 \Rightarrow \Delta 2.8$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $\Delta 2.8 \Rightarrow \Delta 6.7$ ）
○採算	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 7.2 \Rightarrow \Delta 6.1$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $\Delta 6.1 \Rightarrow \Delta 7.3$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標は 2 期連続で横ばい（ $7.7 \Rightarrow 7.0$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $7.0 \Rightarrow 4.2$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 3.9 \Rightarrow \Delta 0.2$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 0.2 \Rightarrow 1.2$ ）

問い合わせ先

担当課：産業振興局 産業戦略部 産業企画課  
電話：072-228-7414  
ファックス：072-228-8816

令和7年10月～12月期  
地域産業経営動向調査  
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関

堺商工会議所 〕

# 調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 7 年 12 月 8 日（月）～令和 7 年 12 月 19 日（金）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200 社	107 社	53.5%
製造業	200 社	104 社	52.0%
卸売業	100 社	55 社	55.0%
小売業	100 社	57 社	57.0%
サービス業	200 社	104 社	52.0%
全産業	800 社	427 社	53.4%

## 【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

## 【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。  
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。  
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

## 調査結果の概観

今期(10月～12月期)の前年同期比を見ると雇用人員DIが改善、売上高DI、採算DIがやや改善、資金繰りDIが2期連続で横ばい、業況判断DIが横ばいとなっている。

来期(1月～3月期)の予測については、業況判断DI、雇用人員DIがやや改善、採算DI、資金繰りDIがやや悪化、売上高DIが悪化となっている。

今期は改善傾向の指標が多いものの、業種別では建設業において悪化傾向が多く見られるなど、業種間で差異が生じている。加えて来期予測は悪化傾向が多く見られることから、引き続き市内企業の動向について注視していく必要がある。

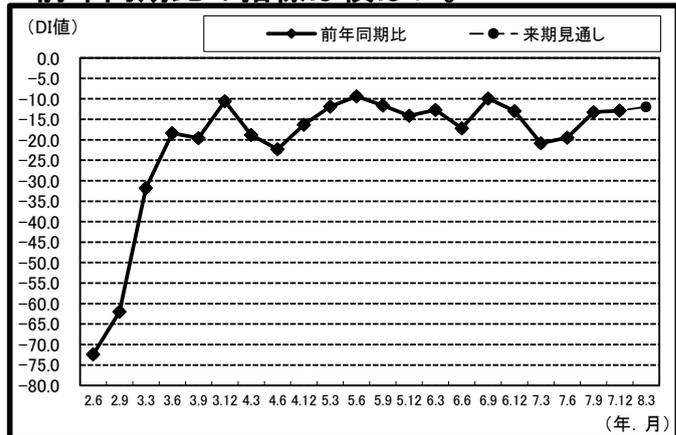
### 1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は横ばい  
( $\Delta 13.3 \Rightarrow \Delta 12.9$ )

・来期見通しの指標はやや改善と予測  
( $\Delta 12.9 \Rightarrow \Delta 11.9$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると製造業は2期連続で改善、卸売業は改善、小売業はやや改善、サービス業は横ばい、建設業は悪化

・前年同期比の指標は横ばい。



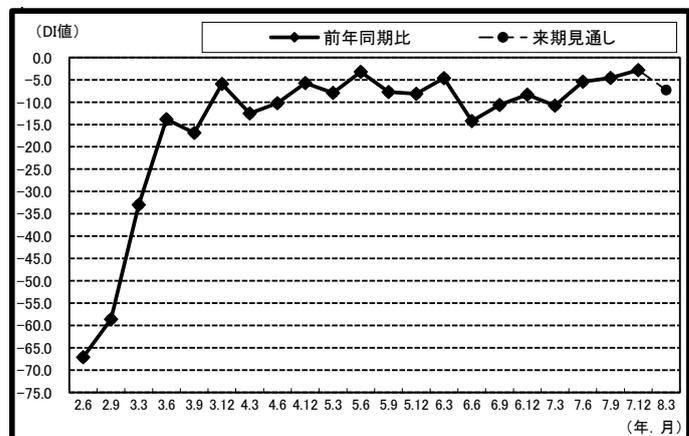
### 2. 売上高の動向

・前年同期比の指標はやや改善  
( $\Delta 4.6 \Rightarrow \Delta 2.8$ )

・来期見通しの指標は悪化と予測  
( $\Delta 2.8 \Rightarrow \Delta 6.7$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業、サービス業は改善、製造業は横ばい、建設業、小売業は悪化

・前年同期比の指標はやや改善。



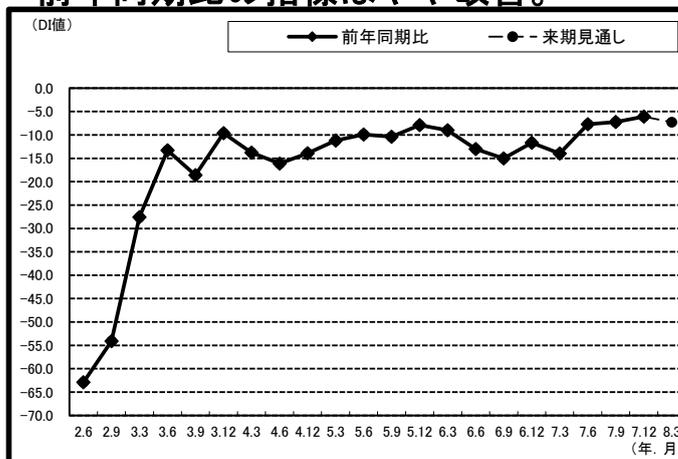
### 3. 採算の動向

・前年同期比の指標はやや改善  
( $\Delta 7.2 \Rightarrow \Delta 6.1$ )

・来期見通しの指標はやや悪化と予測  
( $\Delta 6.1 \Rightarrow \Delta 7.3$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業、サービス業は改善、卸売業は3期連続でやや改善、小売業はやや改善、建設業は悪化

・前年同期比の指標はやや改善。



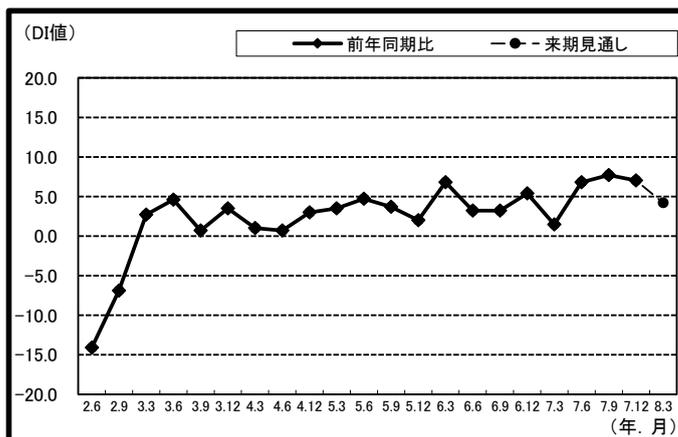
### 4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は2期連続で横ばい  
( $7.7 \Rightarrow 7.0$ )

・来期見通しの指標はやや悪化と予測  
( $7.0 \Rightarrow 4.2$ )

・業種別に前年同期比の指標を見るとサービス業はやや改善、小売業は横ばい、建設業、製造業、卸売業はやや悪化

・前年同期比の指標は2期連続で横ばい。



### 5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標は改善  
( $\Delta 3.9 \Rightarrow \Delta 0.2$ )

・来期見通しの指標はやや改善と予測  
( $\Delta 0.2 \Rightarrow 1.2$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、サービス業は改善、小売業はやや改善、卸売業はやや悪化

・前年同期比の指標は改善。

